



一般社団法人
全国高等学校PTA連合会

一般社団法人全国高等学校PTA連合会
(連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757
発行人 佐野元彦 URL <http://www.zenkouren.org/> eメール info@zenkouren.org

会報

No 82

未来圏からの風!!

第65回全国高等学校PTA連合会大会岩手大会
主催：一般社団法人全国高等学校PTA連合会 主幹：岩手県高等学校PTA連合会

「未来圏からの風をつかめ」新時代を担う君たちと共に」をテーマに8月20日(木)21日(金)の2日間開催され、全国から9540人が参加した。

開会式は岩手産業文化センター(アピオ)を主会場、盛岡市アイスアリーナを副会場に映像配信方式で行われた。開式に先立ち、岩手県の高校生のアトラクションがあり、元氣瀧刺としたパフォーマンスで参加者をうならせた。

今大会は東日本大震災の被災地では初めての開催であり、会員・教職員や高校生の中にも津波で被災した沿岸部の出身者や関係者も多いはずであるが、県民一丸となつて大会準備に当たつてこられた。それは復興に向けたエネルギーさながらに熱い思いとなつて会場の空気を満たしていた。

開会式には3年連続で下村博文文科科学大臣が臨席された。大会の歴史を通じて稀有のことである(*)。今、かつてない大きな教育改革の動きが進行している中で、文科大臣が直接語りかけてくれたことは参加者にとつていい学習機会となり、得難い思い出もなつたに違いない。

2日目の閉会式では満場一致で大会宣言が採択され、全国のPTA活動の新たな礎が築かれた。続いて来年の千葉大会にむけたアピールが行われ、岩手大会実行委員会の労をねぎらいつつ、大会の幕を閉じた。(※2回連続は荒木万寿夫大臣、田中竜夫大臣、有馬朗人大臣の3例ある。)

今号の主な内容

全国大会 岩手大会	1 頁
会長式辞・実行委員長挨拶	2 頁
大会の様子	3～5 頁
地区大会	6～10 頁
岩手大会宣言	10 頁
定時総会報告	12～13 頁
役員・委員名簿	14 頁
会員名簿・組織図	15 頁
組織概要	16 頁



広報誌展示

開

会

式

会長式辞

(要旨) ※謝辞省略



けた人々の気概や心意気に触れていただきたい。

— 本大会は東日本大震災の被災地で開催される初めての大会であり、震災の記憶や教訓を風化させないためにも、皆様方には大会の前後に三陸沿岸部を訪れて、復興への道のりの現状や復興に向

実行委員長挨拶

(要旨) ※謝辞省略



東日本大震災、福島第一原発事故から4年5カ月がたち、今なお20万

人を超える人々が故郷を追われ、避難生活を余儀なくされている。岩手県沿岸部でも仮設住宅に暮らす人が多い。その中で、全国高P連に寄せられた義援金から岩手県は2759万4300円の支援を受けており、この場を借りて御礼申し上げる。

この大会は被災地で初めて行われる大会であり、復旧復興に前進する東北

も積極的な支援活動をお願いしたい。

大会テーマは「未来圏からの風をつかめ」新時代を担う君たちと共に。岩手県が生んだ偉大な文学者宮澤賢治は「生徒諸君に寄せる」という詩の中で「諸君はこの颯爽たる諸君の未来圏から吹いてくる透明な清潔な風を感じないのか、諸君はこの時代に強ひられ、忍従することを欲するか、むしろ諸君よ、更にあらたな正しい時代をつくれ」と呼びかけている。

今、日本の教育が大きく変わろうとしている。具体的には、学力の3要素(一、知識・技能の十分

の姿を全国に発信し、これまでの多くの支援に対する感謝の気持ちを表す絶好の機会として、東北地区の応援を得て岩手県の会員一同心を込めて準備してきた。

社会の急激な変化の中で子供たちを取巻く環境が大きく変わったが、子供たちには未来圏から吹いてくる透明な清潔な風を頼に感じてほしい、奮い

な修得。一、修得した知識・技能を活用して答

ない問題に自ら答えを出していこうとする思考力、判断力、表現力。一、これらのものとなる主体性を持つて多様な人々と協働して学ぶ態度」をしつかり身に付けるための高校教育改革、さらに伸ばすための大学教育改革、3要素のきちんとした評価方法の確立と大学入試方法の改革、これらを三位一体で変えようとする壮大な改革が今動き出している。

また、公職選挙法の改正により、選挙権年齢が18歳に引き下げられ、主権者教育、シチズンシップ教育が高校教育の新たな課題として浮かび上

立つてほしいと思い、宮澤賢治の詩「生徒諸君に寄せる」の言葉を借りて、メインテーマを「未来圏からの風をつかめ」とした。加えて大人たちもまた次代を担う子供たちと共に風上の未来圏について真剣に考える時であると考えてサブテーマを「新時代を担う君たちと共に」とした。

今回、特別第1分科会として「防災教育・復興

がつてきた。

この2つとも学校教育だけでなく、家庭教育の関わりや地域・社会をフィールドとした学習が重要だが、協議の過程や答申の文書の中に「学校」「家庭」「地域」を結ぶ中心にあるPTAという単語は残念ながら出てこない。いうまでもなくPTAは子供たち一人ひとりの幸福の実現を目指して保護者と教職員が手を携えてこれまで健全育成に資する活動に取り組んできた。しかし宮澤賢治の言う「新たな正しい時代」をつくり、さらに正しく発展させていく人を育てるという社会の要請、未来からの要請という視点

教育」を設けた。「防災教育」は究極的には命を守ることを学ぶことであり、そのためには災害発生時の理屈を知ること、地域と社会の実態を知ること、備え方を学ぶこと、災害発生時の対処の仕方を学ぶこと、そしてそれを実践に移すことが必要だ。「復興教育」は被災地の復興とともに、我が国全体が希望を持つて未来に前進できるよう

に立った時、もう一歩進んでどのような社会が望ましい社会であり、その社会を作り発展させるのはどのような考え方や能力を備えた人であるべきかをP保護者がしっかりと認識して、T教職員の皆様の理解と共感を得て、互いにがっちりタッグを組んだPTAこそ未来をつくる人々を育てる主人公になるべきだ。

今大会で提供される様々な思いや情報、成功事例や先進事例に触れていただき、気づき、学び、未来圏からの風をしつかりとつかんで、全国各地に持ち帰り、各学校PTAでの実践に生かして下さるよう願ってやまない。

にするための教育であり、防災教育・復興教育の内容は必ずしも幅広く未来志向の社会をつくる上で重要である。この分科会では東日本大震災の経験も踏まえた具体的事例発表を踏まえて協議していく。

この大会が、子供たちに未来圏からの風をつかんでもらい、未来への希望を持つてもらう方法をつかむ契機になればと願っている。

来賓祝辞

・文部科学大臣
下村博文氏

・岩手県副知事
千葉茂樹氏

・盛岡市副市長
佐藤光彦氏



祝辞要旨は後日発行する「大会会報」で紹介します。



表彰式

優良PTA

文部科学大臣表彰

：26団体にに対し河村潤子
文部科学省生涯学習政策局
長より賞状が授与された。

全国大会会長表彰

(個人の部) 8773人

(団体の部) 8773人

(役員等の部) 43人

以上に対し佐野元彦全国高P連
会長より賞状が授与された。

すべての受賞者を代表して三
輪一朝氏(全国高P連・前副会
長)が謝辞を述べた。

また、昨年の福井大会を主管し
た福井県高P連と北風俊哉実行委
員長に特別感謝状が贈られた。



基調講演

芝浦工業大学学長 村上雅人氏

『夢高くして足地にあり The Sky is the limit!』

盛岡市出身。超伝導工学専門の研究者。数学教育にも力を入れ、応用を意識した数学の「なるほどシリーズ」の教科書群を刊行。講演では、高校3年生での米国留学が人生の大きな推進力になったことや、浮上実験のエピソードも交えて超伝導工学や加速器の原理などにも触れながら人類と科学の無限の可能性や夢の大切さ・教育の重要性を熱く語られた。



分科会

	全国高P連研究発表	特別第1分科会	特別第2分科会	
テーマ	青少年の健全育成に関わる研究発表 高校生の現状と大人にできることを考える	情報化社会と教育 スマートフォン・ネット依存と若者の生活スタイル	防災教育・復興教育 「防災教育」・「復興教育」の推進について	
	第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会
テーマ	学校教育とPTA 生きる力を育む教育とPTA活動	進路指導とPTA 「キャリア教育」の推進とPTA活動	生徒指導とPTA 規範意識の醸成とPTA活動	家庭教育とPTA 家庭教育の役割とPTA活動

記念講演

映画監督 大友啓史氏

『アドリブを生きる力』

盛岡市出身。NHKディレクターとして「ハゲタカ」「竜馬伝」など演出。劇場版「ハゲタカ」で映画監督デビュー。「るろうに剣心」をヒットさせる。講演では、撮影現場の様々な

エピソードに触れながら、「思いがけないことに遭遇した時に、事態を受け入れて柔軟に対処すると『面白いこと』や『新しいもの』を作ることができる。過去をなぞるだけの発想ではすぐ行きづまる。若い人は是非アドリブ力を鍛えてほしい。」と述べた。

2日目

閉
会
式

大会宣言読み上げ



全国高P連旗



岩手から 千葉へ

岩手日報に 掲載されました。

全国高校PTA連合会大会 岩手大会

復興教育 全国に発信

被災地の経験を共有 特別第2分科会

想像力が防災力育てる 岩手大会の防災教育

校庭の仮設いまだに 被災地の心欠かせないケア

全国高校PTA連合会大会 岩手大会

次世代育成 手携えて

大船渡東高

岩手高

全国高校PTA連合会大会 岩手大会

ネット どう付き合う

「元祖の地」で議論 1万人参加

「情報化社会と教育」 意見交換 意思疎通大切訴え

第65回全国高等学校PTA連合大会岩手大会の様子が、岩手日報に掲載されました。同紙は大会前から綿密な取材を進めており、大会初日の内容を4頁の特集記事に編集して2日目の朝には会場配布の態勢を整えていました。迅速で極めて精度の高い記事となっています。ここでは主な記事をコラージュで紹介します。

(2015年8月21日付朝刊)

伊保内高で「宣言」共有

特別第1分科会 発表要旨

意思疎通大切訴え

学生ら7人 意見交換

全国高校PTA連合会大会 岩手大会

高校生を
取り巻く現状

勉強



スマートフォン

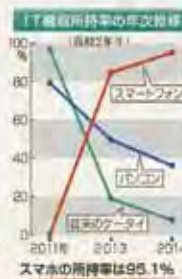


- 母親との関係に満足していない生徒のスマホ依存は9倍
- 親との会話が少ない生徒のスマホ依存は3~4倍
- スマホにはまるほど学力は低下する(2倍)

希薄なつながり



- 1 生徒自身の精神力・精神力・能力について(38%)**
- やる気が出ない(45.2%)
 - 集中力が続かない(19.5%)
 - 成績が悪い(30.2%)
- 2 学習方法・学習態度・学習環境について(29%)**
- 勉強のやり方がわからない(47.6%)
 - 勉強時間とれない(18.0%)
 - 授業との両立ができない(4.1%)
 - 家で勉強できない(16.1%)
- 3 進路について(28%)**
- 進路が決められない(18.0%)
 - 進路が決まっても(18.0%)
 - 進路が決まっても(18.0%)
- 4 その他(4%)**
- 何かがわからない(12.0%)



悩み



- 1 相談しにくい(81%)**
- 親の相談しにくい(81%)
 - 先生に相談しにくい(81%)
 - 友達に相談しにくい(81%)
- 2 相談できない(16%)**
- 相談したいが相談できない(16%)
 - 相談したいが相談できない(16%)
 - 相談したいが相談できない(16%)

現実の人間関係

マスク症候群

マスク使用の割合



- 「安心するから」
 - 「表情を見たくないから」
 - 「みんなが使っているから」
 - 「印象を薄くするため」
 - 「自分の存在を消したいから」
- ※フタコソ、小顔効果、肌荒れ隠し

マスク使用の方が
自尊心が低い
鬱(うつ)傾向が高い

現実コミュニケーション回避

- 先生が頑張りに気づいてくれないほど学力が低下(3倍)
- 親との会話が少ないほど自尊心(自己肯定感)が低下(3~6倍)
- 自尊心が低い、将来への意欲がないほど学力が低下

高校生を取り巻く状況は潜在化、複雑化
→大人の本気度が問われる



「現実関係希薄化」に警鐘

高校生を取り巻く現状や生活環境について、本原教授は「スマートフォン・SNSの普及により、現実関係が希薄化している」と指摘。特に、マスクの着用が「現実関係希薄化」の一因となっているとしている。マスクの着用は、自己防衛の手段として、現実関係の希薄化を招いている。また、マスクの着用は、自己防衛の手段として、現実関係の希薄化を招いている。また、マスクの着用は、自己防衛の手段として、現実関係の希薄化を招いている。

本原 京大大学院教授に聞く

（聞き手は岩手日報・中村 幸一）

北海道地区大会

北見大会

「身近な人と結ぶ信頼の絆」

北見大会メッセージ、
「響けオホーツクの青空へ、未来を担う子どもたちへの応援歌」のもと、第65回北海道高等学校PTA連合会北見大会は、6月13日(土)・14日(日)の両日、道北・北見市で、道高P連13支部234校1073名が出席し開催されました。

初日、午前中の総会では各案件の承認と役員改選が行われ、山本富造会長以下9名の役員が選出され、退任する野村光孝・蜂谷規彦両監事には会場から感謝の拍手が送られました。



午後の開会式では、再任された山本会長が新たにスタートした「北海道高等学校安全互助会」に触れ、「道高P連は今年度、生徒、保護者、教職員を含め、約18万5千人を対象に安全互助会をスタートさせました。北海道の高校生の安全と健康を保持し、PTA活動に参加する単P会員の災害等の際し、お互いがお互いを支え合うという相互扶助の大きな輪を更に拡大したい」と挨拶。続いて、開催支部を代表して永田裕一実行委員長が「北見へようこそ」と歓迎の言葉を述べました。また、共催者である全国高P連会長佐野元彦様のご挨拶と、ご来賓のご祝辞をいただきました。



例年、ご好評をいただいている講演会は、北海道出身の南極料理人「西村淳」様を講師にお迎えしました。「ご飯にしよう」と題したご講演は、大爆笑の写真紹介から始まり、最後は誰の目にも涙という、一瞬たりとも聞き逃せない素晴らしい講演会になりました。

今年から、大会主題を、「身近な人と結ぶ信頼の絆」に変えました。子どもたちの健全な成長を願う私たちは、「善意」と「悪意」が平然と混在する仮想空間ではなく、お互いの顔が見える家庭や学校等で培われる「身近な人と結ぶ信頼の絆」こそが子どもたちの温かい支えになるという共通の強い思いがあつたからです。翌日は、その共通の強い思いを胸に、北見北斗・北見柏陽両校37の教室に分かれて分科会を開催し、各分科会テーマを本音で語り合い、全日程を終了しました。

東北地区大会

青森大会

ふるさとを愛し、
豊かな心を育むために
PTA活動とふるさと教育

第64回東北地区高P連青森大会は、7月2日(木)3日(金)リンクスステーションホール青森において開催されました。

今回の大会ベースは、「東日本大震災と原発事故からの復興復興」としました。最大の懸念は、全国高P連岩手大会と同じ時期に、同じ地区で開催しなければならぬことです。果たして皆さんが集まってくれるのか心配でしたが、各県高P連事務局の尽力により1,545名の参加があり盛会でした。

大会の準備は平成25年10月青森県高P連東青地区18校の会議に始まり、役員方は、大会に至るまで長い間準備に携わってくださり、積極的に裏方を引き受け、汗だくになって仕事をしてくれました。

2日の情報交換会申込は800名を超え受付ストップとなりました。別室も考えましたが、「東北はひとつ」にこだわりました。その中で、東日本大震災義援金について全国高P連佐野会長が現状を紹介しました。その夜の募金額320,492円を前にして篤い気持ちで伝わって感動しました。

講師の恐山菩提寺院代南直哉氏より、「東日本大震災以来、恐山にお参りする方が増えた」とお聞きしたことがあり、この度早く記念講演をお引き受け下さり、「魂のゆくえ」と題して本当に心に染みるお話をしてくださいました。



研究協議は、各県代表によるもので特徴あるPTA活動が紹介され、今後の各単位PTA活性化に繋がるものと思えます。発表を聞きながら、それぞれが本当に「ふるさと」を大切にしている思いを感じました。

全国高P連岩手大会決起集会も組込みました。岩手大会は東北ブロッックで引き受けた大会なので、岩手県実行



委員会の皆様に少しでも励ましのなつたらの思いからです。大会紹介映像や内容紹介、応援エールなど全国大会に向けて意気が上がりました。

私たちのふるさととは、確かに高校生たちが守っています。今回の生徒発表は、「高校生からのメッセージ」と題して多様性を押し出してみました。五所川原第一高校の津軽三味線演奏で幕を開け、「県産品による商品開発の取組み」を柏木農業高校が、県内唯一の観光科をもつ十和田西高校が「地域学習やボランティア実習」を、県高校定時制通信制生徒生活体験発表会より八戸中央高校金澤梨奈さんが「人生何とかなる」を発表しましたが、高校生の熱意が伝わってきました。また、いじめ根絶に係わる紙上発表や青森大会準備担当校18校の学校紹介を兼ねたロビー展示なども好評でした。生徒発表の最後は青森工業高校担ぎねぶたが80名で出陣し、跳ねたねぶたで皆様をお見送りでき青森の暑い夏を感じてもらいました。関係者の皆様に、心から感謝いたします。

関東地区大会

茨城大会

原点に戻って考えよう
『生きる力を育み、
自己実現を支援する』

東京地区大会

東京大会

『明日への力、音にのせて』



第61回関東地区高等学校PTA連合会大会茨城大会は、関東6県及び山梨県から約2500名の参加者を得て、7月9日(木)の一日間「つくばカピオ」をメイン会場として、全体会・分科会が盛大に開催されました。

大会前日の8日(水)は、関東地区高P連総会を開催し、各議案が承認され、山梨県高P連の上野和也氏が新たに関東地区会長に就任し、次期開催県は山梨県になりました。

口やちゑ茨城県副知事、市原健一つくば市長よりご祝辞をいただきました。

続いて、大会宣言文が原案のとおり採択され、開会式を閉会しました。

記念講演では、筑波大学大学院教授で、サイバニクス研究センター長の山海嘉之氏を講師に迎え、「つくばから未来へ」を重介



第27回東京地区高等学校PTA連合会大会はテーマを『明日への力、音にのせて』とし、7月11日(土)国立オリンピック記念青少年総合センター大ホールにて開催されました。

開会式では、原田仁都高P連会長の挨拶に続き佐野元彦全国高P連会長の挨拶の後、東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課主任社会教育主事の稲葉隆様にご祝辞をいただきました。

今大会は、東京都が推進する2020年オリンピック／パラリンピック教育に沿った国際交流をテーマにした、都立田柄高校のPTA事例発表、そして、都高P連の各種委員会活動や地区活動が一目で分かるようパネルを作成し「PTA活動の展示コーナー」を設けました。



また、各学校の理解とPTAの協力で、舞台発表には5校出演、高校生ギャラリー展示には7校のブース発表がありました。

第一部
基調講演は「高校時代は、将来何をやるうかが決まってくる時期です。これから、みなさんが、音楽を仕事にした場合のことを、お話しします。さあ、一緒に歌いましょう。」と、音楽家の青島広志先生のオープニングメッセージから始まりました。

青島先生の素晴らしい講演と参加者全員が一体化された楽しい合唱があり、音楽の広がりや音で結ぶる力を感じました。

第二部
「国際交流への取り組み」というテーマのもと、都立田柄高校から校長先生とPTA会長によるPTA事例発表がありました。

多国籍料理をPTA活動の中心として、地域の調理室を利用し、外国人保護者にも関わってもらえるよう工夫された様子が十分に伺えました。

第三部
舞台発表では、高校生による合唱・薙刀・ジャグリング・ダンスなどがありました。

ギャラリーでは、漫画・天文学・陶芸・漫画・書道・折り紙・写真・華道作品が展示され、子どもたちの日頃の力作を参加者にご覧いただきました。

また、PTA活動の展示コーナーでは、都高P連の活動をより多くの方々に知っていただくため、各委員会・各地区作成のパネルで活動内容などのアピールがされていました。

参加者・スタッフ共、充実した時間を共有し無事に閉会いたしました。



北
信越地区大会

石川大会

「未来圏からの風をつかめ」
〜多様化する新時代を
生きるために〜

平成27年度北信越地区高P連研究大会石川大会は、7月9日（木）10日（金）の二日間におたつて、今春北陸新幹線が開通したばかりで多くの観光客で賑わう金沢駅前の石川県立音楽堂を主会場として、北信越5県から1300名が参加して開催されました。

音楽堂コンサートホールでの開会式では、勝崎悟実実行委員長と全国高P連金井修副会長の挨拶に続き、PTA活動に功績のあった34名に表彰状と石川県の伝統工芸品である山中漆器が記念品として贈られました。その後、竹中博康石川県副知事、山野之義金沢市長より祝辞をいただきました。

引き続き、歓迎アトラクションが



あり、小松工業高校吹奏楽部がマーチング演奏を披露しました。高校生らしいはつらつとした舞台でした。出演した生徒たちはたくさんのお客の前で日頃の活動の成果を披露できて、とても喜んでいました。

分科会は、音楽堂と金沢市アートホールを会場に、高校教育・進路指導・生徒指導・家庭教育とPTAの関わりをテーマに合計20本の実践事例が報告され、参加者からは大いに啓発され、参加してよかったとの感想も寄せられました。

ANAクラウンプラザホテルでの教育懇談会には850名が参加しました。オープニングでは横笛、箏、日本舞踊の華やかながらもしつとりとした舞台が参加者を引き付けていただきました。そして勝崎実行委員長の開会あいさつ、金沢市外志賀教育次長祝辞の後、加賀野菜をはじめとする地元



の食材に舌鼓を打ちながら、大いに飲み、そして語り合いました。

二日目は、『激動する世界情勢と日本のゆくえ』と題して、国際ジャーナリスト・キャスターで明治大学国際日本学部教授の蟹瀬誠一氏に講演いただきました。穏やかな語り口ながらも示唆に富んだ中身の濃いお話しをしていただき、とても好評でした。

大会宣言では「子どもたちの豊かな創造力と、他人を思いやる感性を育むことを願い、私たち自身も研鑽に務め、PTA活動の充実を図る」ことなどを確認しました。閉会式では次年度開催県の福井県に加藤会長から挨拶があり、最後に勝崎実行委員長、長の挨拶で大会は無事に閉幕しました。

東
海地区大会

岐阜大会

「生徒・保護者、そして
地域に貢献できるPTA活動」

東海地区高等学校PTA連合会「岐阜大会」が6月19日（金）、岐阜市の長良川国際会議場メインホール（さくら）において、東海地区の4県から会員1419名が参加し、盛大に開催されました。

開会式では、長尾英樹東海高P連会長及び三輪一朝全国高P連副会長の挨拶の後、名古屋清司岐阜県教育委員会教育次長から祝辞をいただきました。

次に作家・詩人・道化師のドリアン助川氏により「伸ばす言葉、伸びる言葉」という演題で講演が行われました。

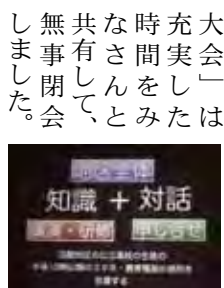
ドリアン助川氏は放送作家を経て、1990年「叫ぶ詩人の会」を結成。1995年から2000年まで、全国ネットのラジオ深夜放送のパーソナリティをつとめ、中高生を中心に人気を博しておられました。講演では、自分が行ってきた人生相談の中で、さもわかつたかのような言葉を並べて相づちをうつておさめるのではなく、自分



の言葉で相手に返すことが大切であること。また、親として子どもになつてほしいかは、親が何をしようとしているかを子どもは見ている。「私は子どもに幸せになつてほしいと願っている」というような姿ではなく親の生き方をしつかりと子どもに見せることが大切であることを教えていただきました。

ドリアン助川氏原作、河瀬直美監督の映画「あん」が、フランスで5月に開かれた第68回カンヌ国際映画祭で「ある視点部門」のオープニング作品に選ばれました。映画製作にかかる苦労話やそのときの写真を交えて映画祭での楽しかったことや感激したことなども紹介していただきました。

最後は研究協議で、2校の発表がありました。岐阜県立高山工業高等学校青木裕一育友会長より「観光地域における工業教育とPTA活動」と題して、工業高校として実習等で製作した遊具を東日本大震災の被災地に



送る取り組みを育友会が予算化して支援してきた発表がなされました。

また、静岡県立沼津東高等学校勝又正人PTA顧問より「PTA活動と協力の在り方」（交流を通じて、新たな可能性を探る）と題して、マンネリ化してきた行事（地区会）から他校の発表を参考にした「卒業生の保護者と語る会」へリニューアルした取り組みや沼津駿東地区でのスマホ・携帯電話の使用自粛について、生徒・保護者に協力できる活動の在り方を発表していただきました。

以上、東海地区「岐阜大会」は充実した時間をみなさんと共有して、無事閉会しました。

近

畿地区大会

和歌山大会

和の心から元気な共育へ

第41回近畿地区高等学校PTA連合会大会和歌山大会は、6月19日（金）20日（土）和歌山県民文化会館とホテルアバローム紀の国を会場に近畿各府県より約2300の参加を得て開催いたしました。

大会前日の19日（金）は分科会関係者による打合せと近畿地区高P連総会が開催され各府県より新旧会長、副会長、事務局長が出席して盛大に開催されました。

また、役員改選で大阪市立高P協議会の宮内圭造氏が27年度地区会長に選出されました。



和歌山県では7月にインターハイの総合開会式、9月に紀の国わかやま国体、10月は紀の国わかやま大会を控えていることから、高校生による歓迎アトラクションを行うわす、和歌山県のPRDVDの放映とわかやま国体のマスコット「きいちゃん」をお呼びして参加者をお迎えしていただきました。

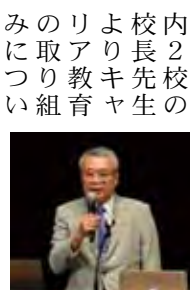
開会式は西原英男和歌山大会実行委員長と全国高P連佐野元彦会長の挨拶に続き、和歌山県副知事と和歌山市副市長よりご祝辞をいただきました。その後、近畿地区広報紙コンクルールの入賞校13校が表彰されました。

また、退任された各府県市の会長・事務局長11名には、近畿地区高P連よりこれまでの活動に対して感謝状と記念品が贈られました。

午後は分科会の後、流れ解散となるため大会宣言決議を行い、満場の拍手により採択されました。最後に次年度開催地の挨拶があり、お揃いのピンクのポロシャツを着用した大阪府・大阪市の代表が壇上より大阪大会をPRし、開会行事を終えました。

記念講演は、世界で初めてクロマグロの養殖に成功した和歌山県白浜町にある近畿大学水産種苗センターの宮下 盛センター長をお招きし、養殖にまつわる苦労話や現況等をお話しいただきました。

昼食の後、『特別分科会』では、キャリア教育についての基調講演と県



内2校の校長先生よりキャリア教育の取り組みについて実践発表をいただきました。

第1分科会『学校教育とPTA』、第2分科会『進路指導とPTA』、第3分科会『家庭教育とPTA』の各テーマに基づきそれぞれの会場において、実践発表と研究協議が熱心に行われ、和歌山大会を終えました。

当日はご参加いただいた皆様と充実した時間を共有できましたこと、あらためてお礼申しあげます。



中

中国・四国地区大会

岡山大会

第57回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会岡山大会は、7月10日（金）、岡山市民会館において、中国・四国地区各県より1650名余の会員が一堂に会し盛大に開催されました。



「ようこそ晴れの国おかやまへ」と岡悦宣実行委員会副委員長の開会宣言で大会は始まりしました。

開会式では、小川浩基大会実行委員長、全国高P連佐野元彦会長、岡山県教育委員会竹井千庫教育長の挨拶に続き、岡山県知事、岡山市副市長の祝辞をいただきました。



「あなたの命はあなた1人の命ではないんですよ。」と命の大切さを語られ、会場は深く感動し涙しました。

昼食後、高校生の活動発表では、岡山県立高松農業高等学校郷土芸能部、就実高等学校バトン部、岡山県立岡山南高等学校吹奏楽部による演奏・演舞がありました。勇壮な和太鼓、優美なバトン演技、楽しく会場と一体になった吹奏楽の素晴らしい高校生姿に参加者は胸を熱くしました。

研究協議では、香川県高P連小林康則副会長、岡山県高P連青山浩司前副会長の両氏を議長に、3つの実践・研究発表が行われました。

第1テーマ「子どもの背を押す育友会」は『NPO法人倉吉鴨水館』の設立をめぐってと題して、鳥取県立倉吉東高等学校育友会・大津理恵前会長、第2テーマでは、『忍の一字で見守るPTA』と題して広島県立松永高等PTA山元龍一顧問、第3テーマでは『保護者・生徒・地域が協力した社会貢献活動』は虹の架け橋プロジェクトを中心としてと題して岡山県立岡山工業高等学校

つなごう子育て

「晴れの国から夢を」

奨学会竹原多美子会長による発表がありました。熱心なPTA活動の様子が伝わり、質疑応答も活発な意見が交換され、有意義な研究協議となりました。

閉会式では次期開催県香川県高P連泉満会長から香川県の紹介と大会参加を待ち望む挨拶があり、岡山大会武田信子実行委員会副委員長が「岡山は桃の季節を迎えました。」と岡山のPRの閉会宣言で、大会は無事に終了しました。

会場ロビーでは、岡山県内専門高校生による生産物の販売が行われ、大変好評でした。



九州地区大会

長崎大会

「つながりあい 共に育む PTA」
 「ひろげよう 深めよう」
 家庭・学校・社会のハート

第59回九州地区高等学校PTA連合会大会やるばいよかばい長崎大会は、「つながりあい共に育むPTA」をテーマに、家庭・学校・社会のハートとしてのテーマで、九州各県から2832人が参加し、6月18日（木）・19日（金）に長崎市のベストウエスタンプレミアホテル長崎、長崎県立総合体育館で開催されました。第1分科会は「青少年の健全育成とPTA活動」、第2分科会は「進路指導とPTA活動」のテーマで、それぞれ4本ずつ実践発表が行われました。質疑も活発に行われ、参加者からは「とても参考になった。ぜひ本校でも実践してみたい。」などの感想が寄せられました。



第3分科会は、「ココロのねつこをつなぐPTA活動」と思いやりの心と志を育むために、のチームでパネルディスカッションが行われま

した。ディスカッション前の基調講演では、諫早市こどもの城の池田尚館長がこどもの城での現状を熱く語られ、合間にはギター演奏・歌もあり会場が盛り上がりました。コーディネーターは長崎女子短期大学学長の浦川末子先生、パネリストには基調講演の講師もお願ひした池田尚館長、学校代表として長崎商業高等学校の松尾博臣校長、保護者代表として長崎南高等学校の濱本和彦PTA会長、大村高等学校の江口真由美育友会美副会長を迎え、「ココロのねつこをつなぐPTA活動」について意見交換を行いました。



タリ、引きこもりなど、就労困難者の積極的な雇用を進め、現在28大雇用を掲げて活発な企業活動を展開されています。氏は社員が働く喜びにあふれ、企業として成長する秘訣は、相手を知って認めること、そして配慮すること、つまり許容と受容が大切であると話されました。多くの参加者が感銘を受け、学びの多い講演会でした。



本大会実施のため、昨年4月末に準備委員会を立ち上げ、9月から実行委員会を中心に準備を進めてきました。当日は梅雨の時期にもかかわらず幸いに天候にも恵まれ、アトラクションや生産物販売では生徒たちも大活躍でした。「やるばい」と声をかけると、「よかばい」と返事が返ってくるようなPTA、学校の皆様に協力いただいた大会を無事終了することができました。

全国大会岩手大会

大会宣言

「未来圖からの風をつかめ! (〜新時代を担う君たちと共に)」をテーマに、第65回全国高等学校PTA連合会大会岩手大会が、社と水の都盛岡にて開催され、大きな成果を収めた。教育の原点は次代を担う若人の育成にこそある。宮澤賢治は「生徒諸君に寄せる」という詩の中で、その若人とは、未来からの風を感じ、輝かしい未来を想像し、そして行動する人ではないと謳っている。私たち保護者もまた、若人の在るべき姿に思いを馳せ、風上の未来圖について真剣に考えるときに、共に手を携えて取り組むべく設定したテーマであった。次代を担う若人の育成、そのためにPTAの果たす役割はいかにあればいいのか、高らかに語り合い、大いに風を感じた3日間であった。ここに大会の成果を踏まえ、知・徳・体に調和した若人の育成と、PTA活動の一層の充実発展を期し、私たちは以下のとおり宣言する。

記

- 一 教育は、「生きる力」すなわち知・徳・体を備えることを根底に据えた子どもの育成にこそある。子どもたちが、確かな学力と豊かな人間性、そして健康な身体をもって自らの人生と社会の未来を切り拓いていけるよう、その支援と振興に努める。
- 一 経済的・社会的な自立の遅れなどが問題視されている。私たちは一層「キャリア教育」を推進し、子どもたちが夢の実現に向け努力できるよう支援に努める。
- 一 社会の構造的変化や高度情報化社会の進展による問題点として、子どもたちのコミュニケーション能力の未成熟、耐性・道徳性の脆弱さなどが指摘されている。我々大人が身をもって手本となり、規範意識の醸成等望ましい社会像の育成に努める。
- 一 核家族化・少子化の進行や保護者の意識の多様化から、家庭や地域の教育力の低下が懸念される。私たちは、子どもの教育の第一義的責任者として、家庭人としては勿論のこと、地域の一員としても、未来を見据えた子どもの育成を期し、あるべき教育の確立に努める。
- 一 子どもたちの情報機器を利用する機会の急激な増加、中でもスマートフォンや無料通信アプリの急速な普及に至っては、それら機器への過度の依存状態、ネットいじめ、コミュニケーショントラブル等、子どもたちの生活スタイルや人間形成にも大きな影響を及ぼしつつある。保護者として、これら情報機器のあるべき使用法の構築とその指導について学習に努める。
- 一 東日本大震災から、私たちは実に多くのことを学んだ。我々は事件、事故そして災害に対する子どもたちの安全確保に全力で取り組まなければならない。一方で、我が国は自然と共存し災害と向き合っていくことが宿命付けられた国であることも教えていかなければならない。そのため、子どもたち自身が危険を予測し回避する力を身につけることができるよう指導していくことが喫緊の課題である。私たちは、これまでの様々な被災体験をもとに、防災教育、復興教育の推進に努める。

第65回全国高等学校PTA連合会大会岩手大会において宣言する。

平成二十七年八月二十一日

一般社団法人 全国高等学校PTA連合会

全国高等学校PTA 連合会賠償責任補償制度のお知らせ

あなたの学校も加入しませんか？
全国加盟高校の2校に1校が加入しています。

掛金

生徒1名あたり年間300円（保険料291円＋制度維持費9円）

※補償開始日が平成27年4月1日の場合、補償期間中の加入については、月ごとに掛け金が減額となります。

補償期間

平成27年4月1日～平成28年3月31日

補償の範囲と支払済高額事故事例

＜生徒もしくはPTAに過失があった場合が対象となります＞



補償の範囲	補償限度額	事故発生 件数割合
1. 生徒の行為に起因する賠償責任 (生徒個人の賠償責任)	対人・対物合算 ^(注) 1事故1億円 自己負担額1事故5千円 (注) 対人事故・対物事故合算して1億円が限度となります。	99%超
2. PTA活動の遂行に起因する賠償責任 (PTAの賠償責任保険)	対人 1名5千万円・1事故5億円	1%未満
	対物 1事故5千万円 自己負担額1事故1千円 (注) 対人事故・対物事故それぞれに適用されます。	
	保管物 加害者1名 10万円 保険期間中 500万円 自己負担額1事故5千円	

年度	支払金額(千円)	事故内容
19年度	87,915	無灯火の自転車 ^(注) で歩道を走行中、後ろから人に追突し転倒させ、脳挫傷により要介護状態となり、死亡させた。 【過去最高支払金額】
22年度	30,494	自転車 ^(注) で歩道を走行中、反対側から来た歩行者と衝突し、頭を強打させ、死亡させた。
23年度	27,252	自転車 ^(注) で歩道を走行中、歩行者と衝突し、転倒させ、外傷を負わせた。
24年度	13,501	自転車 ^(注) で歩行者・自転車専用道路を走行中、歩行者と衝突し、脳挫傷を負わせ、死亡させた。

☆上記のとおり自転車による人身事故が高額支払いになる傾向がありますが、自転車事故に限らず国内における事故を24時間、幅広く補償しております☆

詳しくは、「全国高P連賠償責任補償制度」手引き・チラシをご覧ください。
(各学校へ1月下旬にお送りしています。)

●制度についてのお問い合わせ窓口

一般社団法人 全国高等学校PTA連合会
東京都千代田区神田佐久間町2-1
奥田ビル301号
TEL.03-5835-5711

●引受保険会社

引受幹事保険会社 東京海上日動火災保険株式会社
(担当：公務第二部 文教・済室)
共同引受保険会社 AIU損害保険株式会社
三井住友海上火災保険株式会社
株式会社損害保険ジャパン
TEL.03-3515-4133
TEL.03-5819-3416
TEL.03-3259-4061
TEL.03-3593-6456

一般社団法人 全国高等学校PTA連合会後援
AIU 高校生国際交流プログラム
(参加費無料)
<http://www.highschooldiplomats.org/>

「育てたいのは、
子どもたちの未来。」

私たちは、AIU 高校生国際交流プログラムを協賛しています。

AIU損害保険株式会社
tel: 03-3216-6611 www.aiu.co.jp

MS&AD 三井住友海上

さあ来い! リスク。

リスクとトータルに戦う
総合保険ブランド[GK]

三井住友海上火災保険株式会社
〒104-8252
東京都中央区新川 2-27-2
www.ms-ins.com

TOKIO MARINE NICHIDO

地球の未来にできること。
マングローブ「海の森」づくりは、
その答えのひとつです。

東京海上日動火災保険株式会社
東京都千代田区丸の内1-2-1
〒100-8050
<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

Sampo Japan
Nipponkoa

損保ジャパン日本興亜

2014年9月誕生!

損害保険ジャパン日本興亜株式会社
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL. 03-3349-3111
(公式ウェブサイト) <http://www.sjnk.co.jp/>

平成27年度

定時総会報告

6月27日、ホテル東京ガーデンパレスにおいて平成27年度定時総会が開催された。来賓として文部科学省生涯学習政策局審議官徳田正一氏、日本PTA全国協議会長尾上浩一氏をお迎えした。会の冒頭、佐野元彦会長の挨拶があり、来賓紹介のあと徳田氏・尾上氏より祝辞をいただいた。



徳田正一氏



尾上浩一氏

【議事】

ついで議長に椎野正敬会長が選ばれ、議事に入った。

1号議案、26年度事業報告、26年度決算報告、監査報告が審議され賛成多数で可決承認された。なお、今回も前回から採用された正規の表決方法が踏襲され、事案ごとに賛成者が青い表決札を掲

げて意思表示した。

3号議案で、平成27年度役員（理事・監事）が選出された。なお監事2名は任期2年の2年目に入るため非改選。

休憩時には第3回理事会が開催され、会長・副会長・専務理事常務理事の執行部が選任された。ちなみに、執行部は昨年より副会長1名減員となり、計5名体制となった。

休憩後、第4号議案で会長選出地区補充理事の選任が行われた。すなわち会長が東北地区から選出されたので、東北地区の理事が1名補充された。さらに各委員会の委員長・委員の選任が行われた。

以上を受けて、委員・委員長・顧問・相談役の委嘱が行われた。

以上で審議事項が終了し、報告事項に移った。報告は以下のとおり。

・新役員紹介並びに代表挨拶。佐野元彦会長が所信表明した。

・第65回全国大会岩手大会の準備状況が報告された。なお、実行委員長が内館茂氏（前県連会長）から渡辺正和氏（県連会長）に交代したことも報告された。

内館氏が盛岡市長選挙（8・23投票日）に立候補するという止むを得ない事情によるものである。

・3年後の第68回全国大会の開催地佐賀県への

主管依頼が行われた。

・東日本大震災義援金230万円が福島県連会長に託された。

・最後にこの総会で退任する26年度役員が挨拶し、満場の拍手でねぎらわれた。

なお、休憩後の冒頭で文部科学省初等中等局教科書課長望月禎氏からで全国大会におけるデジタル教科書に関するアンケートの依頼と趣旨説明が行われた。

佐野会長から福島県連

田中会長へ



27年度役員

後列右から

山本理事、住吉理事
上野理事、池本理事
勝崎理事、長尾理事
里見理事、川上理事
木戸理事
吉川代表監事

前列右から

牧田理事、坂井専務理事
相川顧問、佐野会長
椎野副会長、金井副会長
池口常務理事、森崎理事
(川原監事欠席)

会長挨拶(要旨)



P T A活動に関わり、やがて役員など務めていくと地域・都道府県、全国の子どものためという具合に視野と知見が広まる。それが親としての成長ということだろうと思う。しかし、知見を広げるだけでなく行動につながるものが大切であり、そのヒントになる情報や事例を提供し後押しするのが全国高P連の役割だと思ふ。会員各位もそれぞれの連合会で、その意識をもって活動していただきたい。

26年度事業報告

既に本年2月の第7回理事会で27年度事業計画が確定しており、内容は「会報81号」(4月15日刊行)に収載済みである

が、佐野会長より「概況」の説明が行われ、27年度の活動に向けての留意すべき視点が提示された。また、池口事務局長より、重要事項について説明された。(詳細はホームページ参照)

事業報告(概況)

1 加盟生徒数の増加：少子化によって学校の統廃合が進む中で各連合会加盟学校数の減少傾向が止まらない。しかし、加盟校の生徒数は増加している。理由は、昨今の自転車事故および賠償請求事例の増加に伴い、制度への新規加入が増加しているからである。中高一貫校の拡大も有力な要因となっている。各連合会が行ってきた地道な普及啓発活動の賜物である。

2 健全育成課題への対応：継続的に実施している「全国高校生生活意識調査」をはじめ、IT利用環境に関する独自調査、関係機関の調査に対する協力など、各種の調査活動を展開した。しかし、その成果を生かす取組み

は従来の活動を超える段階には至っていない。特に全国組織としての規模と特色を生かした政策提言や運動展開という面では物足りない。

3 「薬物乱用防止パンフレット」の発行：一般社団法人としての公益事業の柱であり、毎年改訂を行っている。26年度は、頻発する危険ドラッグ乱用による事件事故を踏まえて大幅な改訂を行い、時宜にかなった啓発資料となった。各地の薬剤師会などから頒布希望が寄せられるなど各方面から高く評価されている。

4 新たな教育課題への対応：子どもたちを取りまく社会環境は常に変化し、学校・家庭・地域さらに行政が緊密に連携して取り組むべき課題が目白押しとなっている。例えば、高校教育改革、大学入試改革、防災教育、子どもの貧困対策、主権者教育、少子高齢化などに対して、全国高P連としても具体的な取組みを展開する時期に来ていると思われる。

5 事業および組織運営の見直し：社会の複雑化、多様化に伴って対応すべき課題が増加の一途をたどる中で、公益性の高い事業を効果的に遂行するためには、既存の事業や組織運営について点検を進め、改善を図る必要性がある。特に、迅速な意思決定を図りながら会員相互の意思疎通や共通理解を進めるための努力と工夫が求められる。また業務の拡大に対応する事務局機能の強化・合理化を進める必要がある。



▶ 26年度役員

グローバル化時代を生きる高校生を応援します



高校生新聞® 高校生スポーツ®

グローバル化や情報化が急速に進展する中、高校生を取り巻く状況も大きく変化しています。これからの日本を担う高校生に、希望をもって生きる力と知恵を育んでほしい。高校生新聞はそんな思いから、学校生活、社会や世界の動き、進路や学問など、高校生に知ってほしい確かな情報をお届けします。

●1993年10月創刊 ●全国3,901校の高校・648館の図書館に発行(2015年9月号)
●タブロイド判/オールカラー/平均24ページ ●毎月10日発行



スクールパートナーズ

高校生新聞社

編集部

TEL.042-725-1155

FAX.042-724-2710

henshu@scipa.jp

東京本社:〒194-0022 東京都町田市森野1-34-10

大阪本社:〒552-0013 大阪府大阪市港区福崎3-1-148

<http://www.koukouseishinbun.jp/>

6 平成27年度 一般社団法人全国高等学校PTA連合会役員・委員名簿

役職名	氏 名	担 当	選出枠	県名	備 考
会長（代表理事）	佐 野 元 彦	総務委員	東 北	秋 田	東北地区副会長
副 会 長	椎 野 正 敬	総務委員	理 事 会	徳 島	
副 会 長	金 井 修	総務委員	理 事 会	群 馬	
専務理事（業務執行理事）	坂 井 正 人	総務委員長 賠償責任補償制度運営委員長	理 事 会	新 潟	
常務理事（業務執行理事）	池 口 康 夫	総務委員	全国高等学校長協会		事務局長
理 事	牧 田 和 樹	健全育成委員長	理 事 会	富 山	
理 事	森 崎 綾 子	進路対策委員長	理 事 会	京都府	京都府連顧問
理 事	山 本 富 造	進路対策委員	北 海 道	北海道	北海道地区会長
理 事	住 吉 治 彦		東 北 *	青 森	東北地区会長
理 事	上 野 和 也		関 東	山 梨	関東地区会長
理 事	池 本 義 信	研修委員長	東 京	東 京	東京地区副会長
理 事	勝 崎 悟		北 信 越	石 川	北信越地区会長
理 事	長 尾 英 樹	健全育成委員	東 海	岐 阜	東海地区会長
理 事	里 見 英 一		近 畿	大阪府	近畿地区顧問
理 事	川 上 俊 久		中国四国	岡 山	中国四国地区会長
理 事	木 戸 浩 久	調査広報委員長	九 州	大 分	九州地区会長
代表監事	吉 川 二 郎		理 事 会	奈 良	任期継続 2 年目
監 事	川 原 慎 一		九 州	鹿 児 島	任期継続 2 年目
顧 問	相 川 順 子		前 会長		
相 談 役	高 間 専 逸		元 会長		
相 談 役	小 栗 洋		全国高等学校長協会事務局長		

* 会長選出地区補充枠

総 務 委 員 会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・専務理事	新 潟	坂 井 正 人
会 長	秋 田	佐 野 元 彦
副 会 長	徳 島	椎 野 正 敬
副 会 長	群 馬	金 井 修
常務理事	事務局	池 口 康 夫

健全育成委員会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・理事	富 山	牧 田 和 樹
副委員長	東 京	原 田 仁
委 員	北海道	新 井 田 寛
委 員	福 島	田 中 清 美
委 員	栃 木	中 川 英 男
委 員	岐 阜	長 尾 英 樹
委 員	京都府	高 島 弘 武
委 員	徳 島	野 田 誠
委 員	沖 縄	仲 西 春 雅

進路対策委員会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・理事	京都府	森 崎 綾 子
副委員長	北海道	山 本 富 造
委 員	宮 城	嶺 岸 若 夫
委 員	群 馬	多 賀 谷 不二雄
委 員	東 京	芦 沢 喜 美 枝
委 員	福 井	加 藤 貞 信
委 員	三 重	細 渕 修
委 員	兵 庫	坂 口 嘉 裕
委 員	広 島	北 村 正 次
委 員	福 岡	田 中 昇 勇

調査広報委員会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・理事	大 分	木 戸 浩 久
副委員長	北海道	種 田 千 草
委 員	山 形	川 口 豊
委 員	埼 玉	山 崎 隆 史
委 員	東 京	榊 原 正 人
委 員	新 潟	野 澤 裕 朗
委 員	愛 知	高 橋 裕 次
委 員	和歌山	西 原 英 男
委 員	高 知	川 北 恭 弘
委 員	宮 崎	長 岡 政 己

研 修 委 員 会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・理事	東 京	池 本 義 信
副委員長	千 葉	大 木 幸 夫
委 員	北海道	福 井 玲 子
委 員	岩 手	渡 辺 正 和
委 員	長 野	木 下 正 樹
委 員	静 岡	杉 浦 政 紀
委 員	奈 良	倉 本 優 子
委 員	鳥 取	勢 川 洋 之
委 員	長 崎	鈴 木 茂 之

賠償責任補償制度運営委員会

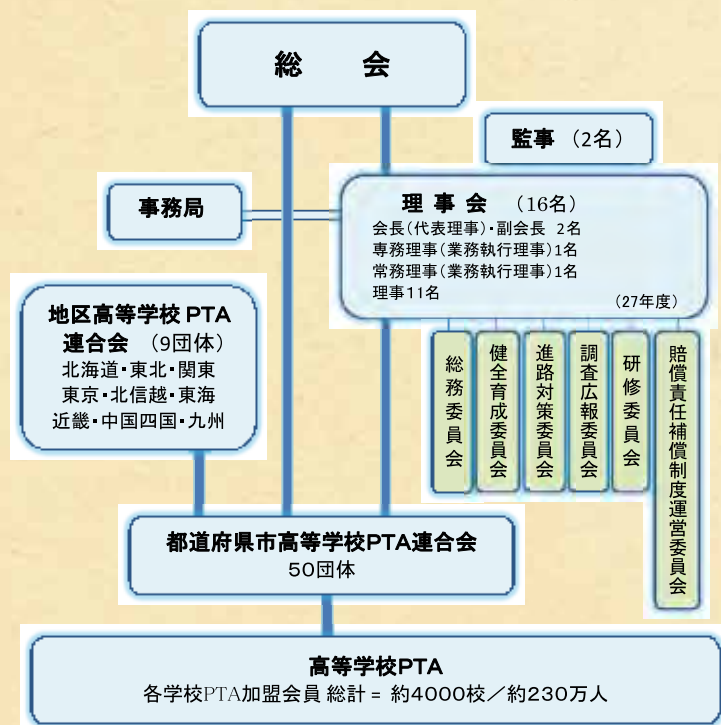
職 名	所属県名	氏 名
委員長・専務理事	新 潟	坂 井 正 人
副委員長	北海道	宮 川 恒 美
委 員	青 森	本 谷 隆 司
委 員	埼 玉	島 崎 富 夫
委 員	東 京	青 木 真 佐 枝
委 員	富 山	清 水 好 勝
委 員	三 重	荒 井 順 治
委 員	滋 賀	石 川 健 一
委 員	岡 山	丸 山 正 人
委 員	熊 本	小 林 博

4 平成27年度 会員名簿（都道府県市高等学校PTA連合会一覧）

No	会 員 名	地区
1	北海道高等学校PTA連合会	北海道
2	青森県高等学校PTA連合会	東 北
3	岩手県高等学校PTA連合会	
4	秋田県高等学校PTA連合会	
5	宮城県高等学校PTA連合会	
6	山形県高等学校PTA連合会	
7	福島県高等学校PTA連合会	
8	茨城県高等学校PTA連合会	関 東
9	栃木県高等学校PTA連合会	
10	群馬県高等学校PTA連合会	
11	埼玉県高等学校PTA連合会	
12	千葉県高等学校PTA連合会	
13	神奈川県立高等学校PTA連合会	
14	山梨県高等学校PTA連合会	東 京
15	東京都公立高等学校PTA連合会	
16	新潟県高等学校PTA連合会	北信越
17	富山県高等学校PTA連合会	
18	石川県高等学校PTA連合会	
19	福井県高等学校PTA連合会	
20	長野県高等学校PTA連合会	東 海
21	岐阜県高等学校PTA連合会	
22	静岡県公立高等学校PTA連合会	
23	愛知県公立高等学校PTA連合会	
24	三重県高等学校PTA連合会	

No	会 員 名	地区
25	大阪府立高等学校PTA協議会	近 畿
26	大阪市立高等学校PTA協議会	
27	京都府立高等学校PTA連合会	
28	京都市立高等学校PTA連絡協議会	
29	滋賀県公立高等学校PTA連合会	
30	奈良県高等学校PTA協議会	
31	和歌山県高等学校PTA連合会	
32	兵庫県立高等学校PTA連合会	中国四国
33	神戸市立高等学校PTA連合会	
34	鳥取県高等学校PTA連合会	
35	島根県高等学校PTA連合会	
36	山口県公立高等学校PTA連合会	
37	広島県高等学校PTA連合会	
38	岡山県高等学校PTA連合会	
39	徳島県高等学校PTA連合会	九 州
40	香川県高等学校PTA連合会	
41	愛媛県高等学校PTA連合会	
42	高知県高等学校PTA連合会	
43	福岡県公立高等学校PTA連合会	
44	佐賀県高等学校PTA連合会	
45	長崎県公立高等学校PTA連合会	
46	熊本県公立高等学校PTA連合会	
47	大分県高等学校PTA連合会	
48	宮崎県高等学校PTA連合会	
49	鹿児島県PTA連合会	
50	沖縄県高等学校PTA連合会	

5 組 織 図



一般社団法人全国高等学校PTA連合会 組 織 概 要

1 本法人の目的（定款第2条）

この法人は、高等学校PTA活動を通して社会教育、家庭教育の充実及び学校教育との連携に努め、わが国の次代を担う青少年の健全育成を図り、もって生涯学習社会の形成に寄与することを目的とする。

2 本法人の事業（定款第4条）

この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 高等学校PTA活動の質的向上に資する研究大会、講演会、研修会等の開催
- (2) 高等学校PTA活動に関する調査研究
- (3) 青少年の健全育成及び生涯学習に資する情報の収集と提供
- (4) 広報紙等の刊行
- (5) この法人の目的に沿い、顕著な業績をあげたPTAその他の団体及び個人の顕彰
- (6) 社会環境（教育環境）整備のための活動、家庭の健全化を図る活動
- (7) 賠償責任補償制度運営に関する活動
- (8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2 前項各号の事業は、日本全国において行う。

3 会員概況

平成27年9月1日現在

地区	項目	会員団体数 ＝連合会数	各団体加盟状況		賠償責任補償制度加入状況	
			学校数	生徒数（人）	学校数	生徒数（人）
北海道地区連合会		1道	263	114,593	105	35,514
東北地区連合会		6県	467	195,279	269	120,678
関東地区連合会		7県	760	510,069	425	324,034
東京地区連合会		1都	81	57,925	25	17,583
北信越地区連合会		5県	328	173,966	110	56,712
東海地区連合会		4県	495	305,012	298	188,376
近畿地区連合		2府4県3市	523	357,148	303	218,337
中四国地区連合会		9県	520	245,760	309	156,329
九州地区連合会		8県	594	299,532	236	122,245
合 計		50団体	4,031	2,259,284	2,080	1,239,808